

(仮称) 内丸プラン中間とりまとめ [抜粋]

■中間とりまとめの位置付け

令和4年3月に策定した「内丸地区将来ビジョン」の実現のため、盛岡市が総合調整役を担い、一体的整備を推進するための検討に取り組んでいます。

この取組の実現には、地区内関係者のコンセンサスと市民の皆さまの理解が不可欠です。2か年にわたって、内丸地区の官民関係者が一丸となって協調的な地区再生の方向性を検討するため、令和4年8月に内丸地区再整備検討懇話会等を立ち上げたところです。

内丸地区の都市整備の歴史の歩みから、これまで大切にされてきた骨格となるまちづくりマインドを丁寧に読み解きつつ意見交換を進めてきました。各関係者の意向や共通認識をもとに、今回、1年目の成果として、今後、更に検討を深めるためのプランニングの方向性の骨子を取りまとめました。

本骨子を基軸にしなが、理想と実現性の交互の議論を積み重ね
「現実的かつ盛岡のまちの個性が光る」内丸プランへ磨き上げていきます。

■再整備の理念と目標

内丸ビジョン：内丸のあるべき姿

県都の核として社会経済を牽引するまち 城下の風格と都心空間が調和するまち
 英知が集い未来を創造するまち

内丸プラン：再整備の理念と目標

< 理念 (案) >

山河に抱かれ歩いてつながる クリスタルシティ盛岡

▷ 都市の観点からみた「盛岡らしさ」

都市の機能性や利便性、経済発展性のみを重視するのではなく、盛岡の人々の「やさしさ」と「意志」を背景に、盛岡固有の歴史や四季の自然、景観、文化など400年の各時代の歩みの中で大切にされてきた大小様々な要素を愛おしみ、丁寧に積み重ねながら、厳しい風土で雪が『結晶化 (crystallization)』※するように、多彩な魅力がコンパクトに詰まった美しく癒されるまちに。盛岡城跡公園も含めた内丸一帯はこの核 (コア) となっています。

※「うちまるサロンvol.4」の岩手大学 教授 南 正昭 氏の講演にて

< 目標 (案) >

- ① 社会経済を牽引する業務集積地とするとともに、技術進展と社会の要請をふまえて各種インフラ、土地利用の空間・機能を高度化、一体連携する。災害時など、非常時にも広域・中枢拠点として機能する。
- ② 一団地の官公庁施設のあり方を見直し機能強化を図るとともに、官民連携により多様な機能が融合した包括的かつ創造性を育める空間構成とする。
- ③ 「盛岡らしさ」の特徴である城下の歴史、四季の自然、人のやさしさが感じられるよう、既存の大小の地域資源を活かした風格ある都市空間デザインとする。
- ④ 盛岡全体に波及効果をもたらし、また、歴史資源・自然資源等にもっと触れてもらうため、平日も休日もより多くの人々が訪れ、回遊し、滞在・交流する場を充実する。

<プランニングの方向性【骨子】>

